

オープンウォーターで世界へ!

トレーニングのつもりで出場した
オープンウォーターで優勝

親 の勧めで3歳から水泳を始めた。幼稚園時代はスイミングスクールに行くのが嫌で、クローゼットに隠れたりコーチに家から引っぱり出されたり。プールでひとり泳ぐのが不安で、小学校時代も観客席で見守る母を、練習の合間に見上げてばかりいる子どもだった。

水泳が面白くなってきたのは中学2年生の頃。18歳以下を対象とした全国大会でメダルを獲ってから、表彰台に上る機会が増えていった。中3では平泳ぎのジュニア日本代表にも選ばれた。

「中1の終わりに枚方スイミングスクールに移籍しました。練習の質・量ともに向上したし、陸上トレーニングも増やしたのが良い結果につながったのだと思います」

同志社香里高校に進学し、憧れていたという同志社大学に入学。学業とスポーツの両方を深められるのが魅力だった。現在はスランプをきっかけに高1で転向した自由形長距離と、オープンウォータースイミング(以下、OWS)に取り組んでいる。

OWSは海、川、湖など、自然の水の中で行われる長距離種目。高2の時、トレーニングの一環で出場してみたのが始まりだった。初レースで招待選手



【やまもと みあ】スポーツ健康科学部2年次生。同志社香里高等学校出身。3歳で水泳を始める。自由形の戦績は、高校2年インターハイ800m3位、ジュニアオリンピック(春季)400m2位、3年インターハイ800m2位、ジュニアオリンピック(夏季)800m優勝など。大学1年で日本選手権1500m7位、ジャパンオープン800m4位。オープンウォータースイミングの主な戦績は、高校2年日本選手権6位、3年で同3位。世界ジュニア日本代表1・25キロ×4リレー8位入賞。全豪選手権日本代表5キロの部2位。大学1年日本選手権4位、全豪選手権日本代表5キロの部2位、アジア選手権日本代表5キロの部2位、FINAマラソンスイミングワールドシリーズ・ハ大会日本代表。

スポーツ健康科学部2年次生

山本美杏さん(2年) Mia Yamamoto 水泳

日本の司令塔を目指す!

中学時代から
全国を舞台に活躍

ラ グビー好きの父に連れられて体験会に参加したのが小学1年生の時。以来、楕円形のボールを追い続ける。4年生になり父子鷹が少し窮屈になると、野球も始めた。かえってラグビーの魅力に気がついた。「野球ではなかなか自分の出番が回ってこないが、ラグビーは常に走り、ぶつかり合うスポーツ。きついけれども思い切り体を動かせるし、トライが決まって勝った時の喜びが大きい。自分はラグビーに向いていることが分かりました」

中学2年生までは、週末に地元のラグビースクールに通う生活だった。さらに上を目指し、3年生から名門・横浜ラグビースクールに移籍。全国優勝を成し遂げ、高校はこれもラグビーの名門、桐蔭学園に進学。高校日本代表にも選出されるなど大活躍した。「いずれは日本代表に」と、少しずつ夢がふくらみ始めた。

文武両道を志して同志社大学に進学。同志社ラグビー黄金期を築いたスーパースター、故・平尾誠二氏(2003年総合政策科学研究科修了)の著書を読み、氏の考え方に感銘を受けたことも影響した。伏見工業高校時代の恩師、山口良治氏との対談集で語られたリーダー論がそれだ。「普通に考えれば、リーダーとは自分が他を引っ張る存在。平尾さんはリーダーが周囲を動かす、

を抜き去り、見事優勝。「才能があるのでは」と助言され、関心を持った。その後めきめき頭角を現し、高3では日本選手権3位に。大学入学後も全豪選手権で銀メダルを獲得するなど、オリンピック出場を視野に捉えるまでに成長した。

OWSではレースの駆け引きも重要だ。先頭はコースを示すブイを探すために顔を上げることが負担になり、後方につくと波の影響が多少減るメリットがあるのは、マラソンと似ている。潮の流れや波の様子を読むのはもちろん、集団内での位置取りを巡ってさまざまな心理戦も展開される。「駆け引きは経験から学ぶしかありません。あとは長時間ハードな泳ぎに耐えるメンタルがあるかどうか。でも試合会場の雰囲気は好きです。音楽が流れていてリラックスできる。そして泳ぎながら集中していくのが、私のスタイルです」

O W Sは、競泳種目とはまったく異なる世界だという。コースロープはもろくないし、海では急に波が高くなることもある。競泳で速く泳げても、海を怖がる選手もいれば、海水の味が苦手という人も。ウェットスーツを着用する大会もあるため、臨機応変な対応力が求められる種目もある。「私は逆に、刻々と変化する環境に対応するのが楽しい。自然環境と競技とが結びついているところが好きなんです」

OWSの練習は競泳の練習と並行してプールで行なっている。より高い目標を掲げているのはOWS。喫緊の課題は、長時間速いペースで波に立ち向かう力の向上だ。必要なのは水を強く押す力。肩周り、肩甲骨周り、広背筋など上半身の強化に取り組んだり、エアロバイクを取り入れたり、新しいトレーニング方法も模索中という。練習は月曜を除いて週9回。陸上練習30分、水中練習2時間半。これに週2回ずつのウェイトトレーニングとエアロ

バイクが加わる。OWSではレースの駆け引きも重要だ。先頭はコースを示すブイを探すために顔を上げることが負担になり、後方につくと波の影響が多少減るメリットがあるのは、マラソンと似ている。潮の流れや波の様子を読むのはもちろん、集団内での位置取りを巡ってさまざまな心理戦も展開される。「駆け引きは経験から学ぶしかありません。あとは長時間ハードな泳ぎに耐えるメンタルがあるかどうか。でも試合会場の雰囲気は好きです。音楽が流れていてリラックスできる。そして泳ぎながら集中していくのが、私のスタイルです」

それぞれの力が活かされるようにフォローする、フォローシップの大切さを語っておられました。僕も高校時代は副主将を務めて100人以上の部員をまとめる難しさを感じていたので、とても共感しました」

考え続けるのが
スクラムハーフの魅力

現 在のポジションはスクラムハーフ。昨秋のワールドカップで、大柄なフォワードのそばで甲斐甲斐しく動いていた、田中史朗選手を覚えておられる方も多いことだろう。俊敏な動きと瞬時の判断力をもとに正確なパスを出し、フォワードとバックスをつなぐ。スタンドオフと共に「ハーフ団」と呼ばれ、チームの司令塔となる重要な役割だ。「スクラムのそばにいるから一番多くボールに触られる」と、このポジションに決めたのは小学生の時。「自分以外の14人をどう活かすか、いかにエリアを上げて敵陣でプレーするか。考える面白さに、どんどん目覚めていきました」

U20日本代表に選ばれた逸材でありながら、「特に足が速いわけではなく、何かに特化した能力があるわけでもない」と、自身を冷静に見ている。必要なのは「自分の強みに磨きをかけること」。選手一人ずつの能力を頭に入れて、ゲームメイクとサインプレーなどの精度をさらに上げたいと考えている。新型コロナウイルスで活動自粛を余儀なく

された期間は、プロや自分たちの試合の録画を繰り返し観て、他のスクラムハーフたちのゲームメイクを熱心に研究した。

ラグビーの根本的な魅力は「15人が一丸となって一つの勝利へ向かうところ」と言う。ノーサイドの精神にも敬意を抱く。試合が終われば敵も味方もなく、友人になれる。そんな仲間が全国に何百人もできた。

大学では河西ゼミで障害者スポーツを研究中だ。授業を受け、夜の練習を終えて寮に帰り、食事が終わって自由時間が持てるのは深夜11時を回る。そこから大学の課題に取り組み生活は正直言ってハードだ。学業との両立に励みながら田村さんを全力で走らせているものは、ラグビーへの情熱の他に、もう一つある。「高校から私立に進学させてくれ、大学でもラグビーに打ち込ませてくれる親への恩返しです」

ワールドカップをきっかけに沸騰した日本でのラグビー人気。田村さんにも、将来はプロとして活躍する夢がある。本来なら試合を通じてトップリーグからの勧誘が始まる時期だが、コロナ禍のために先行きは不透明だ。「それでも自分のすべきことをちゃんとやっていけば、いずれ良い方向に行くと思っています」

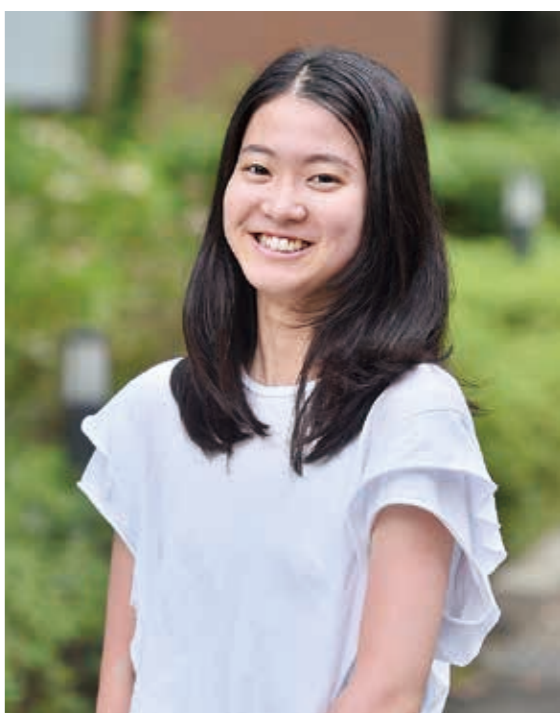
U20から真の日本代表に昇格して、あの「桜ジャージ」を着る日を楽しみにしたい。

スポーツ健康科学部3年次生

田村魁世さん(3年) Kaisei Tamura ラグビー



【たむら かいせい】スポーツ健康科学部3年次生。桐蔭学園高等学校出身。高校時代は全国高等学校ラグビーフットボール大会2位・3位・3位、全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会は2年生準優勝、3年生で優勝を経験。U19高校日本代表に選出。大学2年次U2019年ジュニア・ジャパンに選出され、ワールドラグビーパシフィック・チャレンジ2019出場。U20日本代表ではワールドラグビーU20トロナ2019に出場し、優勝。ポジションはスクラムハーフ。身長170センチ、体重77キロ。



【やまと・ゆいこ】同志社国際高等学校出身。スポーツ健康科学部3年次生。高校時代にラグビー部のマネージャーを務めた経験をもとに、大学では学生アナリストとしてチーム分析を担当する。3年次より石井好二郎ゼミに所属し、「認知症予防と運動」など、健康と運動との関係について研究中。オフは「家でゆっくり」派。

ラグビー部の学生アナリストとして、仲間とともにデータの収集・分析に励む。アナリストというチームに不可欠の役割に焦点を当て、プレーはしなくてもラグビーを真摯に探求する毎日を語ってもらった。

支える側のやりがい
目覚めた高校時代

もともとスポーツは観るのもするのも好き。中学時代はバレーボール部員。高校では新しいスポーツに触れようとさまざまな部活を体験し、ラグビー部の雰囲気が入った。支える側に回るのも良い経験になると思い、マネージャーとして3年間を過ごした。水の準備、ビブスの洗濯、ジャージの管理、ビデオ撮影。顧問の教員に教えを受け、実際のプレーを見ながら自身

で考え、ルールやセオリーを学んだ。試合でタッチジャッジ(タッチラインの外にボールが出たことを知らせる審判員)を務めたのも良い思い出だ。「スポーツをする側から支える側になったのは初めて。でもマネージャーの仕事に大きなやりがいを感じて、どんな仕事にも全力で取り組んでいたら、やがて選手たちから信頼を得ることができた。選手のために働くことが、自分のためになった。とても成長できた3年間でした」

ラグビーは、けがの多いスポーツの一つだ。山本さんのもとと生物や人体の仕組み、健康問題などに関心があった。ラグビーに関わるうち自然とスポーツ医学に関心に向かい、スポーツ健康科学部を選択したのだという。ラグビーの魅力は「タックルを受けて倒

されながらも、15人全員でボールを後ろへ繋いでゴールを目指す」ところ。このスポーツに引き続き関わりたくて、大学でもラグビー部の門を叩いた。

選手目線を鍛えることが
今後の課題

現在は、6名いる学生アナリストの一人として活動中だ。試合の映像から選手の各プレーを数値化するなどして、自チームのデータを収集・整理するのが主要な仕事だ。まとめられたデータはコーチや選手が共有し、作戦立案に活用される。シーズンを通してプレーの傾向を調べたり、ドローンを飛ばして練習や練習試合を撮影したりすることも。「こういうデータを取ってはどうか」と自ら提案することもある。昨季は年間を通じて、ブレイクダウン(タックルで倒れた後のボールの奪い合い)の評価を担当した。密集の中でプレーを正しく評価するには、競技



ラグビー部の仲間たちと

を理解する確かな目が求められる。毎日が努力の連続だ。それだけに、プレーの進化を目の当たりにした時の喜びは大きい。「自分の仕事が報われたんだなど実感できる瞬間です。試合をじっくり観て分析するところも楽しいし、高校でマネージャーをしていた時よりもプレーへの理解が深まりました」

悩みもある。自身にプレー経験がないため、主観的な理解が難しいことがあるのだ。山本さん以外の学生アナリストは全員がラグビー経験者。競技者目線に早く追いつけるよう、プレーを観る機会を増やして今後も研究を重ねるつもりだ。「昨季はブレイクダウンの評価を続ける中で、何をすれば次のプレーに繋がるのかなど、少しずつ分かってきたことも多かったです。これがアナリストならではの醍醐味だと思います」

ワールドカップ2019は、その意味で大いに勉強になった。特に印象深かったのは日本が初の決勝トーナメント進出を決めた、スコットランド戦。「あの時の熱気はまだ続いていると思います。このままラグビー熱が盛り上がってほしいですね」

現在の目標は、選手やコーチからさらに信頼されるアナリストになること。「小さなことから地道に積み重ね、伝統ある同志社チームの一員として少しでもチームに貢献したい」と、輝く表情で語ってくれた。

母から子へ、子から母へ

母から子へ 母・木原由佳さん

今この手紙を書くに当たって、これまでのあなたの出来事が走馬灯のように思い出されます。

小学校1年生の夏、一緒に見に行ったアイスショーをきっかけに13年間のスケート漬けの日々が始まりました。「私もあんな風に滑れるようになりたい」と目をキラキラさせて言ったあなたを今でも鮮明に覚えています。週に1回の習い事のつもりだったのに、数ヶ月後にはほぼ毎日、学校帰りに遠いリンクまで通うようになっていたよね。メキメキと上達して楽しそうに滑る姿を見るのはママもとても嬉しかったです。でもその反面、首、腰、膝、足首など数々の怪我、そして中一の時には大腿骨頭滑り症という大きな病氣も経験しました。上手いかなくて悔しい思いは数え切れないほどあったと思います。放課後に友達と遊べない、大好きなスイーツが食べられない、学校行事に皆と参加出来ない、など我慢せざるを得ない事も多くあり、青春を謳歌出来なかったという思いも恐らくあったでしょう。「リンクもスケート靴も見たくない、もう辞めたい」とあなたから笑顔が消え、練習へ全く行けなくなった時期もありました。でもそんな辛い経験以上に、たくさんの喜びも経験したと思います。難しいジャンプが跳べるようになった時。念願のJAP ANジャージを着て海外試合へ派遣されるようになった時。プレッシャーに打ち勝つ

毎号、スポーツ健康科学部の一組の親子をご紹介します。

て納得の行く演技が出来た時。そして何よりも、たくさんの方々から、「素敵なお演技だったよ」と声をかけてもらえた時。嬉しい事も辛い事も、今までの全ての経験は今のあなたの糧になっているはずだ。そしてその数々の経験や人との出会いが未来へも繋がって行く。だから改めて「起こる事全てに意味があるんだなあ。無駄な事など何一つないんだなあ。」と実感しています。これまであなたと二人三脚でやって来たスケート。たくさんさんの経験と感動を共有させてもらいました。本当にありがとう！

でも「万莉子のために」と思い、ママがやって来た事でプレッシャーを感じた事もたくさんあったと思います。厳しい母親だっただけかもしれない。もっとあなたを信じて、自由に楽しくスケートをさせてあげれば良かった。ごめんね。万莉子は現役時代、「私はそんなに負けん気強くないし、本番になると思い方にはかり考えて出来なくなる。」とよく言っていました。でもいろいろな経験をjして、今のあなたは精神的に本当に強く逞しくなっただけだと思います。「I'm proud of you」とカナダのコーチ達がよく言ってくれていたよね。ママも同じ気持ちです。

これからも万莉子らしく、笑顔と感謝の気持ち忘れずにね。さらに素敵な女性に成長するあなたを楽しみにしています。

子から母へ

子・木原万莉子さん

いつも私の幸せを考えてくれていて、笑いの絶えない毎日をありがとう。

今年でフィギュアスケートの競技生活から引退して2年になりました。思い返せば、この手紙には書き切れないほどたくさんのお母さんの思い出があります。私以上に負けず嫌いなママとは現役時代、よくぶつかり合っていましたね。正直、ママへの感謝の気持ちに気づくことが出来たのは引退する最後の年になってからでした。感謝の気持ちを伝えるまでに時間がかかり過ぎたかもしれない。ごめんね。それまでは自分のことしか考えられず、意地っ張り、ママが私のことを考えて言ってくれる言葉を全てマイナスに捉え、よく喧嘩もしました。思い返せば、ママとはいつもどんな時も苦楽を共にしてきました。小学生から始めたフィギュアスケートは、思っていたより大変なスポーツで、ママは学校から片道2時間ほどかかるリンクでさえも13年間毎日車で送り迎えをしてくれましたね。中学生の時は、足の病気を患い、スケートが1番伸び盛りの時期である2年間を棒に振り、ママを泣かせ、家族に苦労をかけた。高校生になると体型変化、それと同時に学校との両立や気持ちのコントロールに苦しんで過食になり、練習を休んだりと散々迷惑をかけた。いつでもママは、決して諦めることなく、いつも私と真剣に向き合ってくれましたね。また、大

学を前に練習環境を変えたいという私の意思を尊重してくれて、大学を休学してまでカナダに行かせてくれました。私があと2年で現役を引退したいと伝えた時、それならあと2年は全力で頑張りなさい、と私のことを考えて背中を押してくれました。思い返せばいつもどんな時も私をを考えてくれていて、本当に大変だった私を全力で支えてくれたママに、感謝してもしきれません。

もちろん現役時代、楽しかったこともありました。ママとは練習や試合などで、両手で数えきれないほど海外を飛び回りましたね。色々な世界を見ることができ、たくさん経験することが出来ました。これまでにスケートで様々な経験を得ることが出来たのは本当にママのおかげだと思います。そして今、スケートの振付師として活動出来ていることは、家族をはじめ、支えてくれる周りの人達のおかげです。スケートは私の人生に光を与えてくれました。そんなスケートをやらせてくれて、続けさせてくれた家族に本当に感謝しています。これからは支えてくれた人達に少しでも恩返ししていけたらいいなと思っています。

最後に、これまで大変な思いをさせて、たくさん迷惑をかけたママでしたが、いつも側で支えてくれて、応援してくれてありがとう。これからは健康には気をつけて、強い、綺麗なママでいて下さい。



成績通知書の確認方法

同封しています成績通知書の確認方法についてお知らせいたします。2017年度以前生と2018年度以降生ではカリキュラムが異なります。学年によって一部表記が異なりますが、2019年度生を例に説明いたします。

履修年度	期間	科目名(クラス)	単位	成績	担当者名	履修年度	期間	科目名(クラス)	単位	成績	担当者名
必修科目(26単位)						選択科目F群(30単位以上)					
2019	春学期	スポーツ健康科学論入門	2	A	1	2019	春学期	心理学1	2	A	
2019	秋学期	スポーツ生理学	2	D		2020	春学期	心理学2	2		
2020	春学期	基礎実習	2	B		2019	春学期	スポーツ・パフォーマンス1-115	1	A	
2019	春学期	ファースト・イヤー・セミナー	2	A	3	2019	秋学期	スポーツ・パフォーマンス1-611	1	A	
2019	春学期	スポーツ社会学	2	B		《英語(8単位以上)》					
2019	春学期	生理学	2	F		2019	春学期	コミュニケーション・イングリッシュ1-422	1	C	
選択科目A~E群(48単位以上)						2019	秋学期	コミュニケーション・イングリッシュ2-322	1	B	
《選択科目A群(6単位以上)》						2019	春学期	アナリティカル・リーディング1-265	1	A	
2019	秋学期	スポーツ政策論	2	A		2019	秋学期	アナリティカル・リーディング1-265	1	B	
2020	春学期	スポーツ運動学	2	A		2020	春学期	イングリッシュ・セミナー1-546	1	C	
2020	春学期	トレーニング論	2	C		2020	秋学期	イングリッシュ・セミナー2-320	1		
2019	秋学期	健康運動論	2	B		2020	春学期	イングリッシュ・ワークショップ1-354	1	C	
2019	秋学期	スポーツ教育学	2			2020	秋学期	イングリッシュ・ワークショップ2-503	1		
《選択科目B群(22単位以上)》						《英語以外(4単位以上)》					
2019	秋学期	スポーツ医学A(内科系)	2			2019	春学期	中国語入門1-2	2	B	
2020	春学期	スポーツ医学B(外科系)	2	B		2019	秋学期	中国語入門II-5	2	B	
2020	秋学期	生活習慣病概論	2	中止	4						
2020	春学期	発育発達と老化	2	B							
2020	秋学期	スポーツ栄養学	2								
《選択科目D群》											
2019	春学期	スポーツ健康科学のための自然科学入門	2	F	5						
2020	春学期	スポーツ健康科学のための自然科学入門	2	C							
2020	春学期	生物学	2	F							

参考
2020年度春学期終了時点での各学年の修得単位ならびにGPAの平均値
1年次生： 20.6単位 GPA 2.80
2年次生： 58.0単位 GPA 2.52
3年次生： 95.9単位 GPA 2.54
4年次生： 115.2単位 GPA 2.39

同志社大学 成績通知書

所属：スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科

学籍番号：2019年度生(2年次) 999番

氏名： 同志社 太郎
生年月日：20XX年(平成XX年)5月1日生 性別：男

学生ID：1115-19-0XXX

学籍に関する事項

本人住所 10〒
父母氏名 11〒
父母住所

学籍異動

異動種別	異動年月日	異動事由
入学	2019年4月1日	

学業に関する事項

単位修得表

種別	卒業必要単位数	修得数		種別	卒業必要単位数	修得数	
		科目	単位			科目	単位
必修 基礎科目	12	5	10	選択D群		1	2
必修 演習科目	14			選択E群			
卒業研究A・B	6			選択F群	30以上	11	14
				教養関連	18以上	3	4
選択科目計	98以上	28	44	英語	8以上	6	6
選択A~E	48以上	17	30	英語以外	4以上	2	4
選択A群	6以上	4	8				
選択B群	22以上	8	16	合計	124	33	54
選択C群	6以上	4	4	自由科目			8
C群I類	4以上	4	4	免許・資格関係科目			
				必・選A~E 40単位 2.88			
				直近学期GPA 2.71 累積GPA 2.98			

- 1 (評価判定基準)
A：4.0 (特に優れた成績を示した)
B：3.0 (優れた成績を示した)
C：2.0 (妥当と認められる成績を示した)
D：1.0 (合格と認められる最低限度の成績を示した)
F：0.0 (合格と認められるに足る成績を示さなかった)
(GPA算出方法)
各成績評価段階に4.0~0.0の評点(Grade Point)を付与して、1単位あたりの評点平均値=GPA(Grade Point Average)を算出します。
- 2 それぞれの科目を履修した年度です。
- 3 現在登録中の科目です。(成績評価欄は空欄になっています)
- 4 1ヶ月程度授業を受講し、望ましい評価が得られないと本人が判断して、履修を中止した科目です。この場合GPAには算入されません。
- 5 合格評価で書き換えられた不合格評価であることを示します。F評価を取得した科目で、再履修し、D以上の評価を得ることができれば、最初のF評価はGPAに算入されません。
- 6 単位修得表内の必修科目欄(表左上部の3項目)について、「卒業研究A・B」については修得状況を独立して記載するとともに、「必修 演習科目」にも含めて記載します。(2017年度以前生については、必修基礎科目として修得した単位の中にスポーツ・パフォーマンス1の単位も含めて記載しています。)
- 7 選択科目B群で卒業に必要な22単位のうち、16単位を取得している。
- 8 在学期間中に修得した単位数を示します。卒業に必要な124単位のうち、54単位を取得している。
- 9 在学期間中に修得したGPAを示します。
- 10 本人住所の変更は、学生がDUETを通じて行うことができます。
- 11 父母住所の変更は、学生が窓口を通して行うことができます。

※上記の成績通知書はこの誌面用に作成したものです。実際のものとはサイズ等異なります。

Topics

最先端の実験機器を新たに配備

本学部の開設は2008年。開設当初は最新型であった実験機器も、10年以上が経過して必ずしも最新と言えなくなりました。そこで、スポーツ健康科学における最先端の教育・研究を進めるため、研究棟である磐上館に新たな実験機器を配備しました。それらの機器の一部をご紹介します。

超音波診断装置 (Aixplorer, Supersonic Imagine社)

この装置は、身体の内部を非侵襲的(身体に害を与えず)に、リアルタイムで可視化できます。超音波診断装置は、産婦人科で胎児の検査に用いられる「エコー」として、一般的によく知られています。今回導入した装置の特徴は、身体内部を可視化するだけでなく、組織の硬さを評価することのできる「せん断波エラストグラフィ機能」を搭載



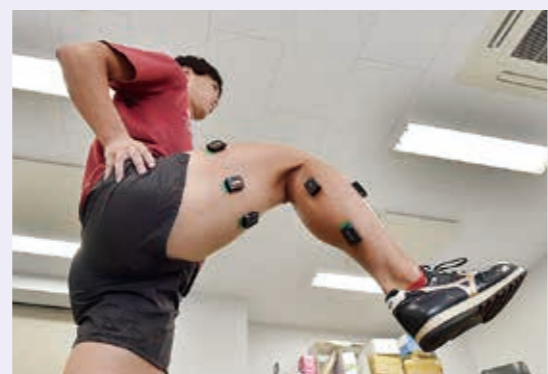
超音波診断装置

この装置は、筋肉が収縮して力を出すときに生じる筋活動電位(筋電図)を記録できます。筋電図計測装置にはさまざまなタイプがありますが、今回導入した装置の大きな特徴は、無線型である点と、筋電図だけでなく運動学的データも同時に取

無線型筋電図・慣性センサシステム (Trigno Avanti Platform, Delsys社)

している点です。写真に示された画像の中で、カラーの領域で組織の硬さを測定しています。カラーマップは、青に近いほど組織が柔らかく、赤に近いほど組織が硬いことを意味します。この機能により、これまで主観的な評価しか行われてこなかった柔軟性という体力要素を、客観的・定量的に評価することができるようになりました。例えば、筋肉の柔軟性はスポーツパフォーマンスと関係があるのか、どのようなストレッチングをどのくらい行えば、効率的に筋肉の柔軟性を高められるのか、といった研究への応用が考えられます。この装置は、「スポーツ健康科学応用演習」や「卒業研究」といった授業で活用されます。

集できる点です。この装置の電極は小型(27×37×13mm)で無線タイプのため、試合や練習と同様に、ダイナミックなスポーツ動作を全力で行っているときの筋電図を記録することができます。また、電極には加速度センサ、ジャイロセンサ(角速度計)、地磁気センサも内蔵されているため、筋電図を測定しながら、身体の動きも同時に記録することができます。これらのデータを、小さいノイズで簡便に計測できる点も、この装置の大きな特徴です。この装置は、「演習」や「卒業研究」において活用されます。



無線型筋電図・慣性センサシステム

新しく着任された先生から自己紹介 遠藤 華英先生



はじめまして。この4月よりスポーツ健康科学部の任期付き助教に着任いたしました遠藤華英です。学部からスポーツ科学を専攻し、博士学位取得後に現職となりました。

専門分野はスポーツを通じた国際協力です。スポーツを通じた国際協力とは、国際的な社会課題解決のためにスポーツの特長を役立てようとする取り組みを指します。開発途上国の多くは貧困や紛争といった課題を抱えています。スポーツは、これらの諸課題を直接的に解決することはできませんが、スポーツがもたらす喜びや達成感、心身の充足は人々の生活の質を向上させ、最終的には社会課題を解決する糸口にもなります。私の研究では、開発途上国が抱える様々な社会課題に対して、スポーツがどのような機能を果たしているのか研究していきます。

そもそも、私がスポーツを通じた国際協力という研究分野に出会ったのも大学生時代でした。文理問わずスポーツに関するあらゆる学習を進める中で、「スポーツは一体社会の何のためになるんだろう」という疑問を持つようになりました。そして、自身が最も関心を持った国際協力とスポーツの結節点を探求するに至りました。スポーツという社会的現象は国際社会における「共通言語」であり、スポーツ科学に関する知見を発信できる人材は、今後世界中で活躍できる機会が拡大すると考えます。学生の皆さんには、スポーツの良い面・悪い面を深く探求し、スポーツを「する」「みる」「支える」に加え、「学ぶ」ことにもワクワクしてもらいたいと思います。また、そのような学習環境が提供できるよう、私自身も研鑽していく所存です。

田附俊一教授 ドイツ在外研究レポート

旧知の教授が4名いるミュンスター大学心理・スポーツ科学部に、2019年3月末より1年間、在外研究の機会を得ました。ミュンスター大学は1780年に創立した15学部からなる総合大学です。

私の専門分野はスポーツ運動学(スポーツ指導の一般理論と実践)です。競技者として、日本代表選手をサポートした指導者として競技力向上に関わり、特に技の発生が研究テーマです。ミュンスターではワグナー教授の運動科学研究室でPsychomotorik、特に運動遊びとコミュニケーションについて



ワグナー研究室のメンバー

研究しました。ワグナー研究室は、ドイツに加え、オランダ、フランス、アメリカ、ブラジル、日本(私)などから博士後期課程学生や研究者が集まり、国際的に活発に研究を行っています。

研究活動は、ミュンスター大学の研究倫理審査を終え、幼稚園で子どものコミュニケーションを多様にする遊びのデータ収集を始めた頃、COVID-19の影響で中断となりました。取得できたデータでEuropean Early Childhood Education Research学会に発表申し込みをしましたが、COVID-19の影響で来年に延期となりました。招待セミナーを依頼されていた帰国前3月の「Konngress Bewege KindheitはWeb学会となり、「日本の幼稚園の遊びと運動」をテーマに担当しました。

教育活動として、旧知のオスナブリュック大学のツイマー教授から依頼された博士論文審査委員、ワグナー教授の博士後期課程学生の研究指導、陸上競技の実技授業、講義：Bewegungserziehung(運動教育)を担当しました。

その他の活動として、中学生の女子地域サッカークラブ(ドイツに部活はありません)のランニング指導を行いました。京都日独協会会長である私は、全国日独協会連合会総会に招待いただき、

在ドイツ大使主催の晩餐会で今後の日独交流について議論を交わしました。

さて、ミュンスターについて紹介します。ミュンスターは、ノルトライン・ヴェストファーレン州の北部、オランダ国境まで車で約1時間に位置し、隣のニーダーザクセン州オスナブリュック(2013年にオスナブリュック大学教育文化学部スポーツ運動学科と学生交換協定を締結し4人が留学済み)と共に、1618年から1648年の30年戦争を終えたヴェストファリア条約締結の平和都市です。市民はその歴史に誇りを持ち、保守的ですが、排他的ではありません。また、自転車の保有台数が人口の2倍と言われ、自転車道(直進、右折レーンおよび信号)が整備された平坦な自転車道の街です。Bio(有機食品)専門店を含む、生産者の顔の見える地産地消の肉屋、魚屋、八百屋、チーズ屋、花屋などで人々が賑わう週3回の「市」で、安心して食材を購入できました。プラスチックを極力使わず、肉や魚も防水性の紙に包む小売店を大切に、会話を楽しむ人々に生活意識の高さを感じました。

日本より高いドイツの税金ですが、外国人を含み大学院まで学費無料です(大学入学資格は一生有効)。COVID-19による休業補償は迅速でした。資格社会のドイツは、大学に行かずともAusbildung(職業専門学校)を終えれば、ほぼ100%仕事に就け(報酬の高い博士号取得者は就職難)、誰



ミュンスター大学本部(旧宮殿)前を駆ける田附教授

もが年2回の各約2週間の休暇を楽しんでいます。残業は法律で禁止(罰則あり)にも関わらず、日本に比べドイツの1時間あたりのGDPは約44%高いと言われています。高校まで1クラス約20人定員の公立学校教員含め、どの職業も命令による転勤はありません。ドイツ人の生活は、真似ることは難しくとも私たちの今後の豊かな人生にヒントを与えてくれると思います。紙幅に制限があるため、ドイツにご興味ある方はstazuke@mail.doshisha.ac.jpまでご連絡、また、京都日独協会のFacebookをご覧ください。お子様が受講できるドイツで学ぶ本学部科目「スポーツ健康科学特殊講義S」や大学科目「EUKキャンパスプログラム」もあります。在外研究の成果を本学部の教育に活かして参ります。

Announcement

■教員父母連絡会 緊急対応奨学金についてのご報告

新型コロナウイルス感染症の影響により学業継続のために支援が必要な学生に対して、教員父母連絡会独自の奨学金制度「スポーツ健康科学部教員父母連絡会緊急対応奨学金」を設立し、6月より募集を開始いたしました。これまでの給付や採否の状況については以下の通りです。

〈1次募集〉

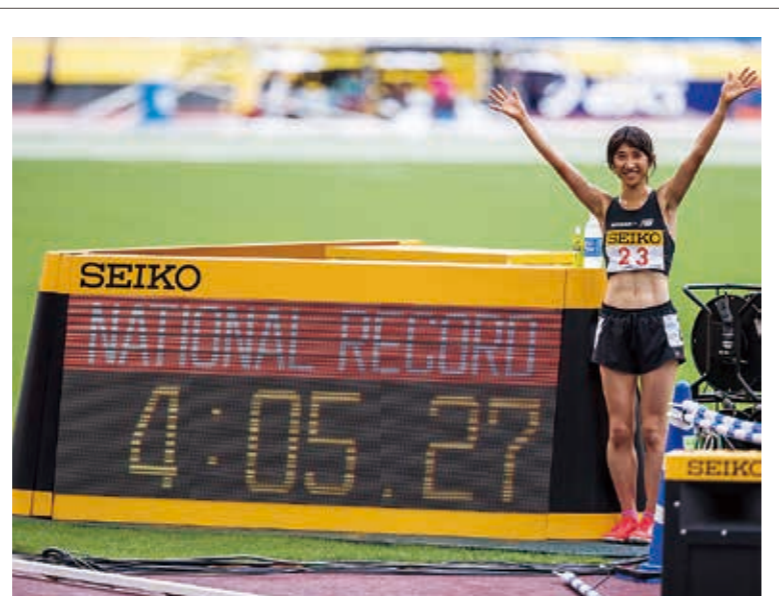
- ①申請人数/100人
(2020年7月22日1次応募締切)
- ②採用人数/89人
(4年生:17人、3年生:30人、2年生:19人、1年生:23人)
- ③給付金額/890000円
(10000円×89人分)
- ④振込日/2020年7月30日(木)、8月6日(木)
- ⑤選考状況について/候補者の選考基準として「2020年度の独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)奨学金に申請し、採用された者とする」と制定されています。不採用の申請者は、いずれも当該のJASSO奨学金に申請を行っておらず、また採用もされていませんでした。

- ◎2次応募締切/2020年10月30日(金)
- ◎奨学金振込時期/2020年11月下旬以降を予定

■教員父母連絡会寄贈図書リスト

警上館のラーニング・テリア(自習室)に常置します。

書籍名
シュンペーター 経済発展の理論(初版)
「よりよい生存」ウェルビーイング学入門
Who you are: 君の真の言葉と行動こそが困難を生き抜くチームをつくる
五輪と戦後: 上演としての東京オリンピック
アナザー1964 パラリンピック序章
マーケティング・ジャーニー: 変容する世界で稼ぎ続ける羅針盤
筋肉研究最前線—代謝メカニズム、栄養、老化・疾病予防、科学的トレーニング法
図解スポーツ健康科学入門
全国まるごと過去問題集保健体育科2021年度版
京都府の保健体育科参考書2021年度版
大阪府・大阪市・堺市・豊能地区の保健体育科参考書2021年度版
奈良県の保健体育科参考書2021年度版
中高保健体育の完全攻略(2021年度版)
「会社四季報」業界地図2021年版
年間購読[月刊誌]教職課程
年間購読[月刊誌]教員養成セミナー



スポーツ健康科学部の田中希実さんが日本新記録を樹立!

2020年7月8日の「ホクレンディスタンスチャレンジ深川大会」女子3000mに学部3年次生の田中希実さんが出場し、8分41秒35の日本新記録を樹立しました。続いて8月23日、東京・国立競技場で開催された陸上の「セイコー・ゴールドランプリ」女子1500mにおいても4分5秒27のタイムで日本記録を14年ぶりに更新して優勝。その功績を称えられ、9月1日に「京都市スポーツ大賞」を受賞されました。また、10月5日には本学部より「スポーツ健康科学部長賞」が授与されました。

新型コロナウイルス感染症拡大で大学生活に影響がある中も、競技生活と学業の両立に励みながら好成績をあげており、来年に延期された東京オリンピックでの活躍が期待されています。

連絡会では、ご父母の皆様方からの声を会の運営に生かしていきたいと考えております。会報への感想および提案、あるいは会の運営方法、企画等、なんでも結構ですので、下記までお寄せください。
同志社大学スポーツ健康科学部教員父母連絡会(スポーツ健康科学部事務室内)
Tel.0774-65-6030 Fax.0774-65-6029 e-mail:jt-spojim@mail.doshisha.ac.jp

ご意見・ご感想をお寄せください!

スポーツ健康科学部のホームページ▶教員父母連絡会のページ <https://sports.doshisha.ac.jp/guardian/overview/overview.html>

DO FIELD 18

Doehisha
University

DO-FIELD [ドゥ・フィールド] 同志社大学スポーツ健康科学部教員父母連絡会報 第18号 2020年11月発行
[編集・発行] 同志社大学スポーツ健康科学部教員父母連絡会 〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3 同志社大学スポーツ健康科学部事務室内 Tel.0774-65-6030 Fax.0774-65-6029 e-mail:jt-spoin@mail.doshisha.ac.jp
[デザイン] 郷原広行 (株式会社デザイン) [制作・印刷] 株式会社デザイン